

HOME

漫才『ベリー苦しみます』

---

(出囃子が流れる)

A「こんにちわー。」

B「どもー。」

A「いやー、君、今日は何の日か知ってるか？」

B「そんなもん、えら知りやがな。今日は泣く子も黙るクリスマスイブやがな。」

A「なんや、その泣く子も黙るっちゅーのんは。」

B「せやから、泣く子も口に一杯ケーキほおばるから皆黙る・・・」

A「なるほどー。そら、そうかも知れん。君、うまいこと言うなあ。」

B「そういえば、君んところは子供がまだ小さいやろ。パーティーやったんかいな？」

A「パーティーちゃう。パーティーやがな。明日するんやけどな。君はまだ独身やから寂しいなあ。」

B「なんでそう寂しいって決めつけるんや、そんなことあるかいな。これでも忙しいんやで。」

A「ほう、そうかいな。そんなもててるとは知らなんだ。失敬、失敬。」

B「掃除に洗濯、年末大掃除・・・」

A「それ、全然クリスマスとちゃうがな・・・」

A「まあ、なんと言うてもクリスマスは子供の天国やね。」

B「ほう、そんなに一杯死にますか」

A「何言うとするんや、それくらい楽しいっちゅーことやんか。」

A「君は子供の頃、どんなクリスマスやった？」

B「そらー、定番やけどね。みんなで夜テーブル囲んで・・・」

A「ほうほう。」

B「パンティーやね。」

A「せやからパーティーやっちゅーとるやるがっ！ ケーキ食べるんやな？」

B「何言うてるんや。桜にイチジクやがな。」

A「なんや？その桜っちゅーんは、桜は春やがな。」

B「いや、サンタ、サンタ、桜がサンタって・・・」

A「それも言うなら、咲いた、咲いた、桜が咲いたやがな。ほんで、イチジクは？」

B「おなかに良いーって・・・」

A「そら、トナカイーや。もう君とはやっとなんわ」

B「さいならー・・・」

(A, B礼して退場)